

## のぼりべつ こども環境宣言

わたしたちは、山や海、川や湿原など、美しい自然に恵まれた、のぼりべつの環境を守るため、「ガス出すな 地球のさげび 聞こえるか!」を合言葉に、みんなで力を合わせ地球に優しい行動をすることを決意し、次のとおり宣言します。

幌別小学校は、学校や家庭でみんなと協力し、使っていない部屋の電気をこまめに消すなど、エネルギーの無駄遣いを防ぐために努力します。

幌別小学校 371名

幌別西小学校は、地球温暖化をくい止めることを目指して、ごみの減量化をうったえ続け、実践していきます。

幌別西小学校 419名

鷺別小学校は、みんなに5つのR（リユース、リデュース、リサイクル、リフュース、リペア）をするよう呼びかけ、地球の環境を守っていきます。

鷺別小学校 282名

登別小学校は、これまでの伝統を受け継ぎ、ボランティア清掃を続け、生き生きとした緑かがやく町をつくりまします。

登別小学校 242名

富岸小学校は、地域の人たちと協力し合っ、て、たくさんのサケが帰ってくる富岸川をきれいにしていきます。

富岸小学校 525名

幌別東小学校は、地球に優しい学校を目指して、植物を植えたり、雑草を抜いたり、節電節水を行ったりします。

幌別東小学校 150名

若草小学校は、二酸化炭素を吸ってくれる木に感謝して、これからも緑を大切にす町にしていきます。

若草小学校 307名

青葉小学校は、デンマークの人々を目指して緑いっぱい町にしたいと思ひます。

青葉小学校 307名

以上を宣言し、かけがえのない地球と生きとし生けるもの、全てに優しい行動を、今、このときから取り組みます。

平成20年6月28日

北海道登別市 小学生 2,603名

による実験と体験学習に児童の笑顔と悲鳴に似た歓声が沸き起こりました。はじめの実験では、二酸化炭素のみを入れたペットボトルと空気を入れたペットボトルをライトで暖めた後に、温度の下がる速さを比較。その結果、二酸化炭素のみのペットボトルの方が温度の下がる速さが遅いことを確認しました。

つづいて、会場内の空気と自分の吐いた息、事前に用意した自動車の排気ガスのそれぞれに含まれる二酸化炭素の量を検知管を使って測定。自動車の排気ガスに含まれる二酸化炭素の量に驚いていました。

そのほか、電気を発生させるには、多くのエネルギーを要することを知ってもらおうと、自転車をこいで自転車に取り付けられた発電機で電気を起こす実験を行いました。



テレビ、扇風機などで、消費する電力量が違うことを知り、「電気を起こすのは大変。見ない時はテレビを消そう」などと話し合っていました。

## のぼりべつこども環境宣言が完成



24人の児童は、各自がサミットに先立ちつくってきた環境宣言文を元気に発表した後、宣言書に登載する宣言文の作成に取り掛かり、8つの宣言文が決まりました。その宣言文を宣言書に書き込み、市内小学生全員（2千603人）による『のぼりべつ こども環境宣言』が完成。児童24人と会場が一体となって声高らかに宣言しました。

## 環境講演会

『のぼりべつ こども環境サミット』に引き続き、18時から環境講演会『利尻島からマグロが消えた〜海洋環境変動がもたらす日本海漁業の変貌〜』（市、登別市環境保全市民会議共催）

が開催されました。

講演会では、講師の小樽商科大学教授の八木宏樹さんが、利尻島近海でマグロが捕れてきたことで、利尻島が潤っていたことや、マグロのエサとなるイカナゴを捕り過ぎたことがマグロが利尻島から消えた原因であること、地球温暖化によって北海道に接近する流水の量が少なくなること、エサとなる魚と海の海洋変動は大きく連動していることなどを述べていました。

講演会には、大人のほかに50人程度の小学生の姿があり、講演会が終わった後も八木先生に質問するなど熱心に聞き入っていました。



のぼりべつこども環境サミットと環境講演会に関するお問い合わせは環境対策グループ（クリンクルセンター内 ☎ 2958）